

はじめに

1. 真空管の開発史を辿って

真空管について話をするとき、年代や前後の関係が判る簡単な「年表」があればと思って探しましたが、ありそうでいて仲々見付かりません。そこで自分で作り始めましたところ、これが意外な大作業であることが判りました。しかし、丹念に文献を調べて行くうちに懐しい球、珍らしい球との出逢いや発見もあって、すっかりのめり込んでしまいました。この「年表」は、今後も引続き手間暇掛けて改訂・増補を重ねて行きたいと思っています。

さて、真空管を改めてこのように並べてみますと、大正から昭和の初期に掛けて諸先輩が米国の先進技術をいち早く導入し国産化された努力の跡をハッキリ読みとることが出来ます。殆どの米国の球は2～3年後、小規模な先進企業では翌年、中にはその年のうちに国産化しているものさえ

あります。

一方、この年表では未だカバーできていませんが、欧州系の真空管は、製造技術を導入した米国の場合と違って業者が真空管そのものの輸入を計りましたので国産品と競合する結果となり、そのうち国際情勢の悪化とともに引揚げて行きましたので馴染みの薄い存在にしかありませんでした。戦後松下電器はじめ欧州系の球も作りましたが真空管産業そのものが半導体に押されて衰退したことはよく知られているところです。

次に、昭和9年の日本に見られる異常とも云える新種のラッシュや、その翌年に見られ

る極端な減少については後の章に譲ることにしましょう。

受信管年表

Ver.2.0

	米 国	日 本
～1919 (～大8)	Audion Valve (De Forest, Patented 1907) 101A (1914), 101B (1915), VT-1 (1917), VT-2 (1917), 211 (1919)	Audion UN100 (東京電気, 1917)
1920 (大9)	UV200, UV201, 215A	UV102
1921 (大10)	UV216, 101D, UV202, UV203, UV204, 211A	
1922 (大11)	UV199, UV201A, 102D, 104D, 205D, 216A, 223A, WD11	
1923 (大12)	UV213, WD12, UV203A, UV204A	UV200, UV201
1924 (大13)	211D, 212D	UV199, UV201A, NVV-5, NVV-6
1925 (大14)	UV196, UX112, UX120, UX171, UX199, UX200, UX201A, UX213, UX216B, UX274, UX876, UX877, WX12, 203D, UX210	UX120, NVV-6A
1926 (大15)	UX171A, UX200A, UX217, UX217B, UX217C, UX225, 221D, 231D, 235D, UX288, UV886, 211E	UX201A, UM103, UM104
1927 (昭2)	UX112A, UX222, UX226, UY227, UX240, 101F, 102F, 239A, UX280, UX281, UX852	UX199, UX240
1928 (昭3)	UX859, UX864, 242A, UX250	UX112A, UX226, UX171 (ILN'A), LL171 (NDK)
1929 (昭4)	UY224, UX245, UY247, 224A, 249A, 247A, 221	UX171A, UX222, UX245 (ILN'A), UX250 (ILN'A), UY227, KX112A, KX280
1930 (昭5)	230, 231, 232, 235, 30, 31, 32, 252A	UX224, KX112B, KX281
1931 (昭6)	233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 247 33, 35, 36, 37, 38, 47 24A, 551, NY64, 262A, 264A	UX109, UX230, UX231, UX232, UY233, UY235 (ILN'A), UY247 (KO)
1932 (昭7)	27, 34, 39, 42, 44, 46, 48, 49, 55, 56 57, 58, 59, 82, 83, 89, 275A	UY227B (KO), UY247A (ILN'A), UY247B, UY452 (KO), KX280B